高等研ニュースレター
2011年7月発行

IIAS NEWS LETTER

vol. 78
July 2011

International Institute for Advanced Studies

contents

報告 [2P] 第69回理事会・第62回評議員会を開催

西村専務・立石理事長・尾池所長

報告 [3P] 新法人移行後の最初の評議員の選任

お知らせ [4P] 「高等研カンファレンス」の紹介

紹介 [5~6P] 高等研報告書・選書の刊行
・「細胞履歴に基づく植物の形態形成」
・「ヒトの心と社会の由来を探る」

鎌田 博氏

紹介 [7P] 研究と啓蒙活動のあいだ

天野副所長

夏の高等研（写真説明 8P）

財団法人
国際高等研究所
http://www.iias.or.jp/

「学術の芽」を見つけ、育てる。

理事会・評議員会

報告

第69回理事会・第62回評議員会を開催（6月17日）

左より：西村専務、立石理事長、尾池所長

6月17日（金）に第69回理事会・第62回評議員会を開催。2010年度（平成22年度）事業報告及び収支決算、理事・監事・評議員の定数変更等に係る寄付行為の一部変更、公益財団法人移行後の最初の評議員候補者の推薦が承認され、役員及び評議員の選任が行われました。その内容は下記のとおりです。

1. 2010年度事業報告及び収支決算の承認

（1）研究事業

2010年度の研究事業では、18件の研究プロジェクト、民間資金による研究1件、国際フォーラム1件他、京都大学との協定に基づく共同研究、専門的人材育成事業等を実施しました。

また、研究プロジェクトに関連する新たな試みとして、2010年度より次世代の研究者養成を念頭に、若手研究者、特に大学院博士後期課程の学生のための「高等研学術道場プログラム」を開始しました。

さらに、従来の研究事業の企画・推進体制のあり方を見直し、「研究企画会議」及び「研究推進会議」を2011年度に設置する準備を行いました。

その他、10件の成果報告書及び2件の高等研選書の刊行し、3回の公開講演会、地域イベント等を実施しました。

（2）収支決算

事業活動支出は、その6割を占める「研究事業費」において、特定奨励費交付額の減額に対応して研究推進費を中心に大幅に圧縮し、予算比4,550万円の抑制を実施しましたが、収支決算については、下記のとおりとなりました。

①事業活動収入合計　8,193万円
②事業活動・投資活動支出合計　17,840万円
③当期収支差額　▲ 9,647万円

収支差額については、「研究事業推進基金」を取崩してこれに充当しました。

なお、外部から資金の受け入れは、文部科学省科学研究費補助金「特定奨励費」の1,000万円でした。

2. 理事・監事・評議員の定数変更等に係る寄付行為の一部変更

2012年4月1日付けで行われる理事、監事及び評議員の改選に当り、公益法人移行申請に係る迅速かつ適切な対処及び法人での円滑な意思決定が行えるようにするために、役員及び評議員の定数を削減すること、及び文部科学省の寄付行為モデルに合わせた文言に変更することについて、寄付行為の一部変更が承認されました。

3. 公益財団法人移行後の最初の評議員候補者の推薦

最初の評議員選定委員会第1回委員会において、最初の評議員候補者は理事会からの推薦によるとの決議がなされ、本理事会が推薦を行うこととなりました。

これに基づき、今回の理事会において最初の評議員候補者を決議し、当該委員会に推薦を行いました。評議員候補者は、本研究所設立の背景から、産業界4名、学界4名、行政関係者2名による10名の構成となりました。

4. 役員及び評議員の選任

前回の理事会・評議員会以降、関係諸団体等の役員交代などに伴う理事3名、監事1名及び評議員1名の辞任があり、理事3名、監事1名及び評議員1名の選任が行われました。

［退任］ 副理事長　津村　準二
（公社）関西経済連合会前副会長

理事　北尾　哲郎
（社）京都経済同友会前代表幹事

理事　山中　諄
（社）関西経済同友会前代表幹事

監事　服部　盛隆
（社）大阪銀行協会前会長

評議員　杉原左右一
関西学院大学前学長

（退任日は2011年6月30日。但し津村副理事長は5月23日）

［新任］ 副理事長　柏原　康夫
（公社）関西経済連合会副会長

理事　大竹　伸一
（社）関西経済同友会代表幹事

理事　長谷　幹雄
（社）京都経済同友会代表幹事

監事　國部　毅
（社）大阪銀行協会会長

評議員　井上　琢智
関西学院大学学長

（就任日は2011年7月1日で任期は2012年3月31日まで）

理事会風景

報告

評議員選定委員会

新法人移行後の最初の評議員の選任

新法人移行後の最初の評議員の選任については、最初の評議員選定委員会を別に設けて行うことなどを決議した理事の定めについて、文部科学省から3月28日付にて許可を受け、同省の許可に基づいて最初の評議員選定委員会を同日付にて設置しました。

第1回委員会は5月24日に開催され、最初の評議員候補者については理事会から推薦を受けることを決定しました。

第2回委員会は6月29日に開催され、理事会から推薦のあった最初の評議員候補者10名について個別に審議を行い、何れの候補者も、各分野での豊富な経験、高い見識を有した方々で、本法人の運営の適正を確保するに足る資質をお持ちで、評議員としての重要な権利を適切に行使できる方々として、新法人移行後の最初の評議員として適任であるとの理由から、10名全員を選任しました。

この後、新法人移行後の最初の評議員に係る就任手続きを行い、正式に評議員として定款案付則にその氏名を記載することになります。

お知らせ

「高等研カンファレンス」・「高等研レクチャー」

「高等研カンファレンス」の紹介

本年度の全く新たな取り組みとして、前号（77号・2011年5月発行）のニュースレターでお知らせしました「高等研レクチャー・高等研カンファレンス」ですが、このほどプログラム概要の一部がまとまりましたのでご紹介します。今後、詳細が確定次第、随時ウエッブサイト等で紹介します。

高等研レクチャー：テーマ「神経科学の最前線：脳から心へ」

●開催日：2011年12月5日（月）13：00〜17：00
●場　所：東京大学安田講堂
●Lecturers：Lind a Buck (Fred Hutchinson)
David Anderson (Caltech)
Jean-Pierre Changeux (Institute Pasteur)
Tetsuro Matsuzawa (Kyoto Univ.)

IIAS Research Conference 2011 on Frontiers in Neuroscience:From Brain to Mind

●開催日：December 6~9, 2011
●場　所：国際高等研究所

・**December 6**
15:00-15:10 Opening Remarks
Kazuo Oike (President of IIAS)
15:10-16:10 Opening Lecture
Linda Buck (Fred Hutchinson)
16:10-18:30 Session：Olfactory System

・**December 7**
9:30-12:30 Session：Axons and Wiring
13:30-17:00 Session：Synapse

・**December 8**
9:30-12:30 Session：Neural Circuit
13:30-18:00 Session：Pheromone-induced Behavior

・**December 9**
9:30-12:00 Session：Sensory Perception
13:00-16:00 Session：Cognition
16:00-17:00 Closing Lecture
Jean-Pierre Changeux (Pasteur Inst.)
17:00 Concluding Remarks
Hitoshi Sakano (Univ. Tokyo)

●主要な招待講演者の紹介：

Linda Brown Buck（リンダ ブラウン バック）

・現職名：フレッドハッチンソンがん研究所
基礎科学部 正メンバー
・略　歴：
1975 ワシントン大学にて学士号（心理学、生物学）取得
1980 テキサス大学にて博士号（免疫学）取得
1980-84 コロンビア大学にて博士研究員
1984-91 コロンビア大学ハワードヒューズ医学研究所研究員
1991-96 ハーバード大学神経生物学部助教
1994-97 ハワードヒューズ医学研究所連携研究員
1996-01 ハーバード大学神経生物学部准教授
1997-00 ハワードヒューズ医学研究所准研究員
2001- ハワードヒューズ医学研究所主任研究員
2001-02 ハーバード大学神経生物学部教授
2002- フレッドハッチンソンがん研究所基礎科学部正メンバー
2003- ワシントン大学神経生物物理学部客員教授
・受賞歴：ガードナー国際賞（2003年）、ノーベル医学生理学賞（2004年）ほか多数
・参照サイト：http://labs.fhcrc.org/buck/index.html など

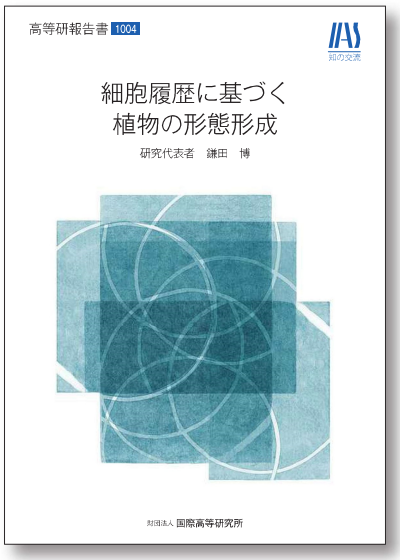
Jean Pierre Changeux（ジャン ピエール シャンジュー）

・現職名：パスツール研究所名誉教授、コレージュ・ド・フランス名誉教授
・略　歴：
1957 エコール・ノルマル・シュペリウール(ENS)にて学士号取得
1958 エコール・ノルマル・シュペリウール(ENS)にて修士号取得
1964 パリ大学にて博士号取得
パスツール研究所にて指導教官J. Monod博士、F.Jacob博士の下で研究に従事
1965-1966 カリフォルニア大学バークレー校にて博士研究員
1967 コロンビア大学にて博士研究員
1967-1971 パスツール研究所研究員
1972-1974 パスツール研究所主任研究員
1975-2006 パスツール研究所教授、コレージュ・ド・フランス教授
・受賞歴：ガードナー国際賞（1978年）、ウルフ賞医学部門（1982年）、スウェーデン王立科学アカデミー　カール・グスタフ・ベルンハード・メダル（1991年）、バルザン賞（認知神経科学）（2001年）、米国科学アカデミー賞（神経科学）（2007年）ほか多数
・参照サイト：http://www.college-de-france.fr/default/EN/all/historique/jeanpierre_changeux.htm など

紹　介

高等研研究成果報告書

No1004「細胞履歴に基づく植物の形態形成」を刊行



・研究代表者：鎌田 博　筑波大学大学院生命環境科学研究科教授
・書籍版：本文頁数：159頁
・価　格：2,800円（税込）
・研究年度：2007～2009年度
・ISBNコード：978-4-906671-81-6

注：お問い合わせ及び申し込みは、(財)国際高等研究所事務局・学術出版担当まで
TEL：0774-73-4000　FAX：0774-73-4005　E-mail：book@iias.or.jp　http://www.iias.or.jp/academic/report.html

（本書「はじめに」抜粋）

20世紀中盤から始まった分子生物学の飛躍的な発展に伴い、遺伝子とその機能に関する理解が急速に進展し、生物および生物の示す諸現象に関する知識は膨大なものとなり、生物に関する理解も飛躍的に高まった。従来多くの謎が残されていた動物や植物等の多細胞生物の発生・分化についても新しい知見が多数提供され、新しい生命像が構築される時代になってきた。

このような生命科学の発展の中で、多くの生物学者が疑問に思っていること、なかでも、植物では一般的と考えられている分化全能性が動物ではなかなか実現できない理由はどこにあるのか、あるいは、分化全能性は動物細胞も持っているもののその実現方法を我々が未だに手に入れていないだけなのか等、日頃あまり交流がない動物・植物の研究者が互いにその垣根を取り払い、自由に討議し、新たな発想を生み出す目的で、原田宏先生（筑波大学名誉教授）を研究代表者とする研究プロジェクト「動・植物における分化全能性」が、2003年から2007年にかけて、国際高等研究所において開催された。

私もその研究会（プロジェクト）に参加させていただき、植物における分化全能性を考える上でそれまでにないさまざまなアイデアをいただくことができた。なかでも、プラナリアの再生現象では、分化全能性（多能性）細胞のみを集めても再生は起こらず、上下軸や前後軸等の位置情報が必須であることを教えていただいたことは目から鱗であった。（中略）

そこで、植物の体制から生じるこのような未解明の問題を、動物の研究者と共有し、動物における考え方を是非とも取り入れたいと考えるようになった。そこで、国際高等研究所の新しい研究会（プロジェクト）として「細胞履歴に基づく植物の形態形成」を提案し、2007年から3年間実施することができた。この研究会では、植物研究者と動物研究者が細胞履歴に関する最新の話題を提供しつつ、互いに自由に意見交換・討議を行い、これまでにない新しいアイデアを生み出してもらうことに務めてきた。（略）

高等研選書
紹　介

S27「ヒトの心と社会の由来を探る」を刊行

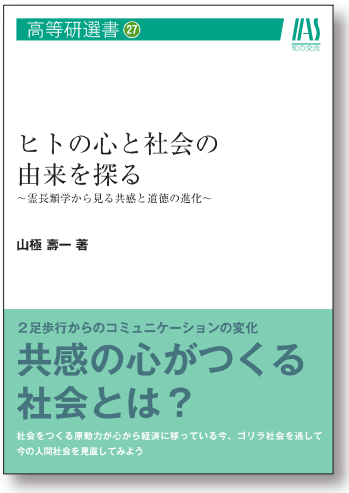
2011年2月19日(土)開催の高等研公開講演会『ヒトの心と社会の由来を探る～霊長類学から見る共感と道徳の進化～(講師・山極教授)』(京都銀行協賛)の講演内容を収録したものを著者が読み物として修正加筆等を行い、高等研選書として刊行したものです。

30年以上もゴリラの研究に携わっておられる氏が、ゴリラの側から見たヒトの社会を考察し、現代社会の不都合に警鐘を鳴らします。

山極 壽一氏

・著　者：山極 壽一
　京都大学大学院理学研究科教授
・書籍版：本文頁数：109頁
・価　格：1,000円（税込）
・ISBNコード：978-4-906671-87-8

注：お問い合わせ及び申し込みは、
(財)国際高等研究所事務局・学術出版担当まで
TEL：0774-73-4000
FAX：0774-73-4005
E-mail：book@iias.or.jp
http://www.iias.or.jp/academic/report.html



（本書・むすびの抜粋）

不都合な現実に直面して ― むすび

外部世界を変える大きな原因になっているのは、コミュニケーションの方法が変わったことです。視覚環境が変わりました。われわれはいま携帯を使って、目に見えないネットワークに囲まれて生きています。それは顔が見えません。毎日毎日顔を突き合わせて、視線を交わしながら信頼関係を確かめ合うわけにはいかない。しかも、まだ会ったこともない人と実はネットでつながれているわけですね。そして、それを基にいろいろな商売をしたり取引をしたりしている。(中略)

例えば、スポーツを観戦に行く、コンサートホールに行く。それは、実は非常に安易な共感の求め方です。自分が努力する必要はないわけですね。お金さえ払えば、みんなと一緒に跳びはねて、ウェーブをやって、抱き合って喜ぶことができる。こういうことを言うと、サッカーファンに怒られるかもしれませんが。でも、それをわれわれの身体が求めているわけです。われわれの心が求めているわけです。

でも本来ならば、それは地域のために、共同体のために使って、さまざまな社会をつくることに貢献すべきものだったはずです。それがいま、発揮できる場所を失っているわけですね。だからこそ、それは赤字になっているというふうに表現されてしかるべきだろうと思うわけです。

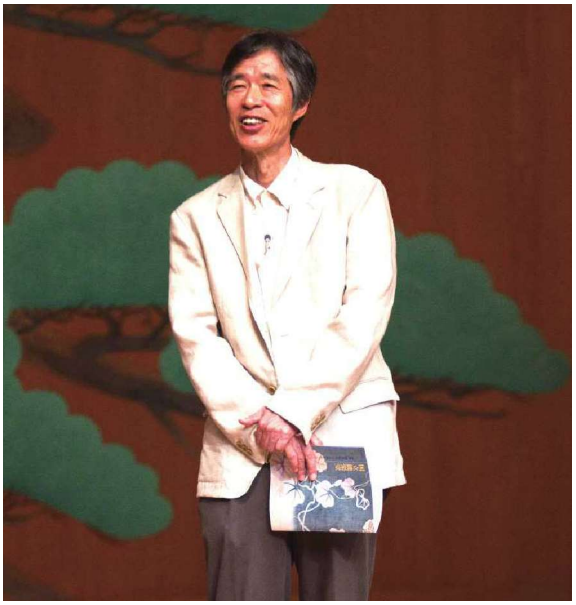
そもそもの原因は、社会をつくることが、われわれのいまの行為の原動力になっているのではなくて、経済が社会を大きく動かしているからです。つまり、何でもかんでも数値でつじつまを合わせようとする。それがかじを取っていく時代だからこそ、われわれの行為は社会の中で正当な評価を受けない。われわれの心は社会の中で正当な価値付けをされない。だからこそ心の赤字というものが、いま生まれつつあるのでないのかなと思うのです。

現代は、隣人が長いこと死体として放置されているという時代です。もういっぺん社会というのをわれわれが本来持っていた共感に基づいて、つくり直さなくてはならないのではないか。そして、それはひょっとしたらゴリラから学べるのではないかと思っております。

紹介

国際高等研究所 副所長　天野 文雄

研究と啓蒙活動のあいだ



舞台で「能楽あんない」の解説をする天野文雄副所長

さる7月9日、東京千駄ヶ谷の国立能楽堂の普及公演で、その日の演目の『女郎花（おみなめし）』について話をする機会があった。

国立能楽堂は昭和58年の開場以来、定例公演、企画公演、普及公演という3つの主催公演を柱に運営されてきているが、そのうちの普及公演には、「能楽あんない」として、30分の解説が付せられている。たんに上質の舞台を提供するだけでなく、「普及」「啓蒙」にも力を注いでいるのは、さすがに国立の能楽堂である。開場以来、どの主催公演もほぼ満員という状況が続いているというが、この日も約600席の見所（けんしょ）はいっぱいだった。

能楽の研究に携わっていると、このような機会は少なくないのだが、この種の講演にさいしては、筆者はできるだけ研究の最先端の理解を伝え、なおそこに少しでも自身の新しい発見なり見解なりを盛り込むことにしている。そうでないと、そもそも話をする意欲がわかないからだが、一方、講演の準備をしていると、たいがいなんらかの発見があるからでもある。聞き手は研究者ではないから、その点への配慮はもちろん不可欠だが、ともあれ、こうして筆者は、市民を対象にした講演のおかげで、ずいぶん自身の「学術の芽」をみつけてきたように思う。

今回の演題は「頼風の悔恨ー『女郎花』を読む」というものだったが、難解な部類に属す『女郎花』という能は、そもそもどのようなことを訴えようとした能なのか、という点をめぐって話してみた。その結論が題目にかかげた「悔恨」という主題なのだが、それは辞書や入門書はもちろん、能楽研究においても指摘されていない理解なのである。

国立能楽堂・7月公演のポスター

喜多流『女郎花』。後場（のちば）に登場した小野頼風（出雲康雅）とその妻（大島輝久）。
地謡（じうたい）に友枝昭世など実力者を配して、喜多流のレベルの高さを感じさせた舞台だった。
（写真提供・国立能楽堂）

研究活動実績（6月1日～7月31日）

報　告

研究プロジェクト	開催日	研究代表者	参加者数
ジオ多様性研究会	6月３日(金)～４日(土)	尾　池　和　夫	20
研究推進会議	6月９日(木)	志　村　令　郎	12
宇宙における生命の総合的考察とその研究戦略　於：東京大学	6月16日(木)～18日(土)	海　部　宣　男	27
メタマテリアルの開発と応用	6月18日(土)	石　原　照　也	31
天地人ー三才の世界：宇宙・地球と人間の関わりの新しいリテラシーの創造	6月21日(火)～22日(水)	尾　池　和　夫	13
新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究助成事業 「製造業における知的資産の評価と開示方法に関する調査研究」	6月24日(金)	岩　田　一　明	5
諸科学の共通言語としての数学の発掘と数理科学への展開	7月１日(金)～２日(土)	高　橋　陽一郎	6
研究成果の取りまとめ会合「数量的アプローチによる日本経済の比較史的研究」 於：大阪大学	7月２日(土)	宮　本　又　郎	5
21世紀における文化としての設計科学と生産科学	7月２日(土)	岩　田　一　明	5
ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築	7月15日(金)～16日(土)	西　村　健一郎	16
単分子エレクトロニクスの現状認識と近未来実現へ向けての中核体制構築	7月22日(金)～23日(土)	夛　田　博　一	21

研究活動予定（8月1日～10月31日）

カレンダー

開催予定日	研究プロジェクト	研究代表者
８月26日(金)～27日(土)	交渉学の可能性ー新しい世界の関係構築と紛争の予防のために	松　岡　　博
９月２日(金)～３日(土)	宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究ー禅をケーススタディとしてー	天　野　文　雄
９月５日(月)～９日(金)	コンピュテーショナル・マテリアルズ・デザイン（CMD）ワークショップ　於：大阪大学	赤　井　久　純
９月15日(木)	新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究助成事業 「製造業における知的資産の評価と開示方法に関する調査研究」 作業部会　於：東京	岩　田　一　明
９月16日(金)～17日(土)	21世紀における文化としての設計科学と生産科学	岩　田　一　明
10月７日(金)～８日(土)	ジオ多様性研究会　於：東京	尾　池　和　夫
10月14日(金)～15日(土)	諸科学の共通言語としての数学の発掘と数理科学への展開	高　橋　陽一郎
10月15日(土)	心の起源	松　沢　哲　郎
10月20日(木)	新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究助成事業 「製造業における知的資産の評価と開示方法に関する調査研究」	岩　田　一　明

高等研関係者の褒章関連

お知らせ

2011年度（平成23年度）春の叙勲受章者が6月18日に発表されました。高等研関係者での受章は次のとおりです。

叙勲受章者（旭日重光章）矢嶋　英敏氏（副理事長・(株)島津製作所相談役）

叙勲受章者（瑞宝重光章）石井　紫郎氏（学術参与・研究企画会議委員/日本学士院会員・東京大学名誉教授）

高等研就業カレンダー（8月～10月）

カレンダー

8

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

表紙写真：
高等研の中庭につがいの鴨が遊びに来ていました。（2011.7.13撮影）

編集：発行者　財団法人 国際高等研究所　事務局長　佐藤行則　〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地
TEL：0774-73-4000　FAX：0774-73-4005　http://www.iias.or.jp/　2011.07. 2,500実